

さんさんだより

兵庫小学校

算数 少人数ＴＴ

出口・中尾・諸石



平成 30 年 7 月 20 日 (第 2 号)

算数は、新たな問題であっても、まず、前に学習したことを思い出して考えていきます。1 学期に学習したことは、2 学期や 3 学期に、または、次の学年になって使うことがあります。その時に、思い出して使うためには、学習したことを、正しく、確実に記憶しておく必要があります。長い夏休みに入りますが、学校からの課題や自学を計画的にやり遂げながら復習を繰り返します。復習が次への準備になります。

< 1・4 年生 > 担当 出口

(1 年生) 1 年生は、『時計』の読み方を学習しました。時計（何時何分）と言えば、生活の中でも、最も身近な数の単位になります。「ちょうど〇時」のときは、短い針を〇のところに合わせて、長い針を 12 のところに合わせて、模型の時計を操作しながら、時刻の表し方を覚えめました。さらに、長い針を 6 のところまで進めて、「〇時半」の言い方も学習しました。今まで「長い針が 6 のところで、席に着きます。」と言っていたのが、「〇時半には、席に着きます。」になります。夏休みは、お家でも、「〇時半」の言い方をしたり、時計を見て判断したりする習慣をつけて欲しいと思います。



(4 年生) 4 年生は、1 学期最後の単元『そろばん』の学習を終えて、1 学期の復習の時間をとることができました。連日、30 度を上回る気温で、40 名が入った教室では、扇風機も焼け石に水の状態です。そこで、クラスを半分に分けて少人数の学習集団による学習内容の習熟に取り組みました。既習の内容を中心に基礎固めを図ったり、思考力・表現力を必要とする発展的な問題に取り組んだりしました。一斉の授業と違って、自分のペースで課題に取り組めて、難しいところや間違えたところなどは、個別に指導してもらえるので、「先生、次の学習プリントをください。」と、進んで取り組む姿が見られました。

< 2・5 年生 > 担当 諸石

(2 年生) 2 年生は、1 学期後半の単元は、「水のかさ」と「時こくと時間」でした。「水のかさ」では、L (リットル) dL (デシリットル) mL (ミリリットル) の単位とその関係「 $1\text{L}=10\text{dL}=1000\text{mL}$ 」ということを実際に容器に水を入れて、確認してきました。しかし、単位の関係が十分理解できていない子どももいます。夏休みに身の回りの容器を見つけた単位を使って、ご家庭でも確認していただくと効果的です。



「時こくと時間」では、1 日 = 24 時間、1 時間 = 60 分という関係と時計の長針と短針の読み方、時間と時刻の違いを学習しました。学校では、「2 時間後は〇時」「〇分前は、〇時〇分」ということを理解させるために、針式時計で考えるようにしています。デジタル時計に慣れている子どもには少し難しいようでした。実生活の中でも使えるように、ご家庭でもご協力をお願いします。

（５年生） ５年生は、１学期の単元の中でつまずきが多く見られ、子どもたちが苦労したのは、「小数のわり算」でした。筆算をする時に、いろいろなルールがあり、整数の時と同じように考えるために、小数点の位置をずらしたかと思えば、余りは、元の小数点の位置に戻さなければならないなど、子どもたちにとっては、覚えることの多い学習でした。さらに、この単元から、２本の数直線を使って数量を表すことに取り組みました。この数直線は、２学期や６年生の学習でも使っていくので、確実に描けるように指導してきました。子どもたちも、最初は、「これを描くのは、面倒だな。」とつぶやいていましたが、この図を使って、□を使ったかけ算の式に表すと、必ず正しい式に導くことができることに気が付き始めました。夏休みは、特に、小数のわり算の反復練習に力を入れ、定着を図ることが大切と思われます。

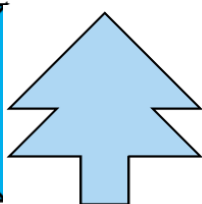
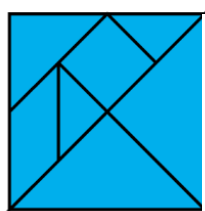
「合同な図形」では、合同な図形の「対応する頂点、辺、角」を見付けるのが苦手な子どもが多く見られましたが、「同じ角の大きさ」「同じ辺の長さ」に目をつけることで、見付けることができるようになってきました。また、三角形を描くにも「２辺とその間の角」「１辺とその両はしの角」「３辺」で描けることを知り、描き方が分かったと、コツをつかんで上手に描けるようになってきました。



【三角形の作図条件の実物】

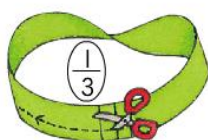
< 3・6年生 > 担当 中尾

（３年生） ①１学期の最後の単元は、あまりのあるわり算でした。商の求め方、あまりの求め方を学習した後に、いろいろな問題を解いて練習をしました。繰り返し練習をして、正確に解くことができるようになりました。ただ、文章題の中には、答え方に気を付けないといけない問題が出てきました。「78 ページの本を１日に８ページずつ読みます。全部読み終わるまでに何日かかりますか。」という問題です。 $78 \div 8 = 9$ あまり 6 ですが、全部読み終えるには９日では足りません。あと残った６ページを読み終わるためにもう１日必要です。そこで答えは１０日になります。ただ計算するだけでなく、あまりを問題の場面とあわせてよく考え答えを求めるように指導をしています。



②「タングラム」 大小の三角形、正方形、平行四辺形の形を組み合わせ指定された形を作る、パズルの学習をしました。子どもたちは、いろいろと試行錯誤して形を作っていました。できた時には「できた～！」とうれしそうでした。お家でもぜひ一緒にされたらどうでしょう。良い頭の体操になりますよ。

（６年生） ①６年生の１学期最後の単元は「およその面積や体積を考えよう」でした。面積が広い時、東京ドーム何個分ということがありますが、そもそも東京ドームの面積はどれくらいか分からないとどれくらい広いかイメージできません。そこで東京ドームを面積の公式が分かっている図形に見立てて求めました。正方形や長方形や円に見立てて求めました。実際の面積（ 46755m^2 ）に近い値を求めることができました。東京ドームは兵庫小学校の敷地より少し広いぐらいはあったことが分かりました。



②「メビウスの輪」紙テープを１回ねじりメビウスの輪を作り半分や３分の１に切ってどんな形になるか体験させました。昔の数学者の発見した輪の不思議さにふれることで図形の面白さを少しでも味わうことができました。